福島。
浜通り。
南相馬。

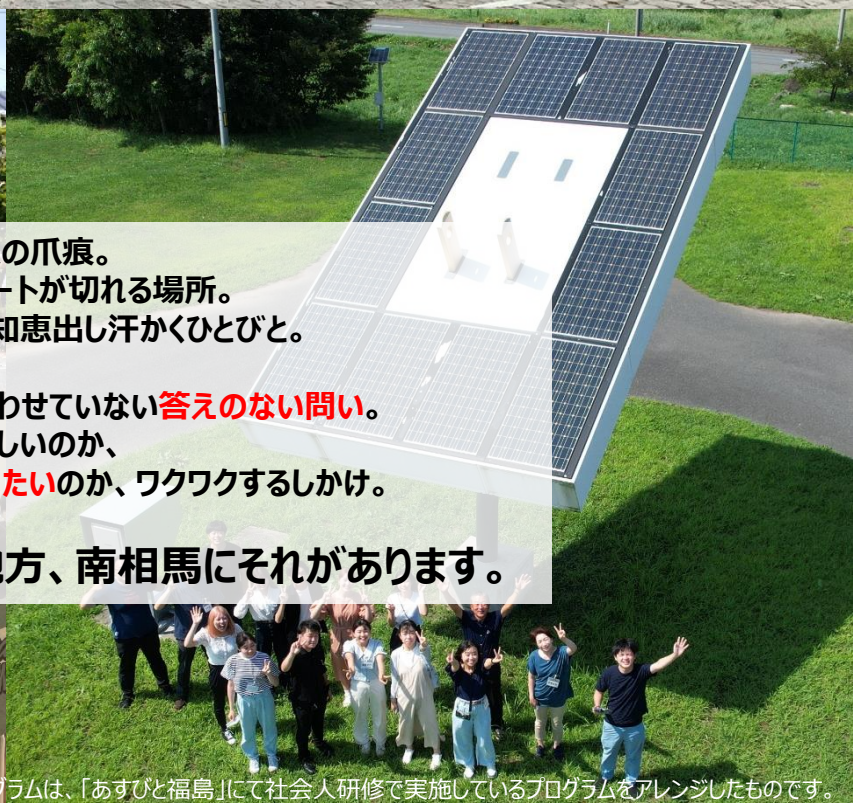
教育旅行のひとコマに
探究学習・テーマ学習に

2023年度版

リセットされたまちが、未来へのスイッチを押す。

探究のフィールド、お貸しします。

“地方創生の先進地”南相馬で、“ありたい社会とありたい自分”に触れる旅



記憶にとどめたい震災の爪痕。
だからこそ新たなスタートが切れる場所。
未来を見つめ笑顔で知恵出し汗かくひとびと。

大人が正解を持ち合わせていない答えのない問い。
どんな社会であってほしいのか、
将来の自分はどうありたいのか、ワクワクするしかけ。

福島県浜通り地方、南相馬にそれがあります。

※当プログラムは、「あすびと福島」にて社会人研修で実施しているプログラムをアレンジしたものです。

一般社団法人 あすびと福島

南相馬市 MINAMISOMA

教育旅行/探究学習としての理想的なフィールド「南相馬」

教育旅行（修学旅行等）の一場面として、また探究学習、テーマ学習などのフィールドとして、日本の将来を背負って立つこどもたちに、ここ南相馬をお勧めする理由があります。

●南相馬市

福島県浜通り北部の市。
仙台市といわき市のちょうど中間に位置し、福島県相双地方で最大の人口を有する。
毎年7月下旬に開催される「相馬野馬追」で知られる街である。東は太平洋に面しており、サーフィンのメッカとしても知られる。
2006年に旧鹿島町、旧原町市、旧小高町が合併して誕生。

人口　57,797人（2022年9月30日）
面積　398.58㎢

●過去の振り返りをゴールにしない 未来志向型探究、フィールドワークが実現できます。

南相馬市は、2011年の東日本大震災によって被害を受けたまちの一つです。
また、地震・津波による直接被害のほか、原発事故による避難指示により小高では5年間以上、人が住むことができませんでした（原発から20km以内）。

原町、鹿島では、震災からの復興に向け、震災後さまざまな活動が生まれました。
相双地域では、いまだ帰還困難地域も存在する中、南相馬では、知恵と工夫で立ち上がった多くの人々や、産業基盤を創出する国家プロジェクトとして、ロボットの一大開発実証拠点「ロボットテストフィールド」が整備されるなど、復興の動きは地域の先鞭をつけるものでした。

2016年に避難指示が解除された小高は“ゼロにリセットされたまち“として、U,Iターン者含めてスタートアップを志す若者が次々集まり、チャレンジしやすいまちとして注目を集めています。

そんな背景から、南相馬を**“地方創生の先進地”**と呼ぶ方も増えています。

●南相馬市の東日本大震災被害

死者数　636人（直接死＋死亡届）
震災時点の人口　71,494人

●南相馬市小高

2011年の原発事故による避難指示（原発から20km以内）のため、12,842人の人口がゼロになった地区。
2016年避難指示解除。
2022年9月現在、居住人口3,837人。

●国指定重要無形民俗文化財
相馬野馬追

●チャレンジするまち「小高」

南相馬市

●“サーフィンの聖地”北泉海岸

●福島ロボットテストフィールド

プログラム運営

当プログラムは「一般社団法人あすびと福島」が運営、コーディネートします。

一般社団法人 あすびと福島

●あすびと福島とは

私たちあすびと福島は、東日本大震災を機に社会課題が浮き彫りとなった福島の地をフィールドとして、若い世代が地域の創生を担う“あすびと＝明日を創る次世代人材たち”として成長することで、“憧れの連鎖”が生まれることを目指し、**小学生から大学生、若い社会人までのそれぞれの年代に合わせた成長の場づくり**に取り組む一般社団法人です。

●あすびと福島の志

“あすびと”とは、明日をつくる人。明日を切り拓く人。私たちは、たくさんの“あすびと”たちを、社会に送り出したいと願っています。はじまりは、東日本大震災と原子力事故から2年後の2013年4月。福島県南相馬市。「あすびとパーク」を舞台として、地域の小中学校と連携し、子どもたちの自ら考え行動する力を育む体験学習をスタートさせました。**長い時間がかかる福島の復興と創生。それを実現するには、志に満ちた次世代人材**が必要だと信じたからです。

2022年からは学びの場を県外に広げ、福島の高校生・大学生に伴走を続け、越境フィールドスタディを行っています。
福島のみならず全国各地の創生をともに担う人材の育成という私たちの志は、着実にその幅を広げ、フロントランナーが生まれ始めています。

●あすびと福島への想い　代表理事　半谷栄寿

私は、大震災前の2010年6月まで東京電力の執行役員であり、
原子力事故について心から申し訳なく思っています。

一方、福島県南相馬市の出身でもあり、風評被害に悩む南相馬市に支援物資を届けるボランティア活動を大震災直後の3月19日から5月にかけて6回にわたって行いました。その際、物資を届けた先で出会った菓子店を営む女性から、「地元の子どもたちのためになる仕組みを創ってほしい」と託されました。私自身も、物流が回復すれば物資支援の役割は終わることから、その後は復興のための継続的な仕組みが不可欠と思っていました。福島の復興を担う人材を育成するという私の”志”は、こうして生まれました。

それから10年以上を経ても、私の志はぶれず、若い人材が自ら育つ場づくりに創意工夫を継続し、
スタッフたちをはじめとした同志のおかげで、その成長を実感できるまでになりました。
私の宿命に原発事故への責任感MUSTが消えることはありませんが、次世代人材を育成したいという志WILLが動かしている今の私自身の確かな進化を感じ、それは私にとっての幸せでもあります。

人をつくることが、明日をつくる道。
“あすびと福島”は、その挑戦を続けます。

あすびと福島

●スタッフ紹介

沖沢真理子<次世代育成チーム長>

福島県南相馬市出身。2011年3月の東日本大震災当時は小学校の事務員として働く。「子どもたちにたくさんの経験をさせてあげたい」という半谷の思いに共感し、あすびと福島に入社。小中学生の体験学習の企画・運営や、高校生・大学生のプロジェクトへの伴走を担当。

國分隆成<次世代育成チーム>

福島県郡山市出身。高校在籍中に、「高校生が伝えるふくしま食べる通信」の創刊に携わる。「食べる通信」の活動から地方創生に興味を持ち、宮崎大学地域資源創成学部に進学。2021年に大学を卒業し、あすびと福島に新卒社員として入社。沖沢のもとで各世代の学びの場づくりを担当。

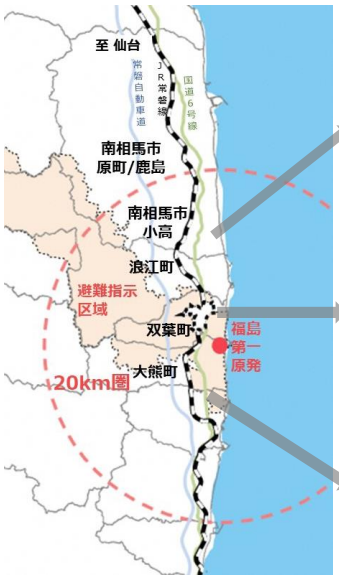
プログラムイメージ

被災地となった福島という「非日常」に身を置き、**大震災から10年以上を経ても時が止まっている区域「影」を体感することを起点に、新しい地域の価値を創生しようとする力強い「光」に触れる**ことで、これからの社会と自分に向き合いアウトプットする**プログラム**です。**志を持って活動する“ひと”、“会社”へのフィールドワークを組入れることで、将来の自分やありたい社会への気づきが持ちやすいよう、より未来志向型の内容となっています。**

福島沿岸部の避難指示が出された地域の「いま」

Field-work 「福島県沿岸部被災地の影と光を体感」

福島県沿岸部



新しい価値が生まれている小高

津波の恐ろしさを今に伝える校舎

福島第一原発と除染土の貯蔵所に向き合う

Work-shop 「福島県沿岸部の“影と光”レビュー」

南相馬市　会場「あすびと福島」ほか

なにが起きたのか？どんな影響があったのか？
そんな土地だから生まれたチャレンジとは？

▼訪問先例（受入人数上限あり。分散アレンジします）

これからの社会とありたい自分

Field-work 「志を持って歩んでいるひと、会社に出会う」

南相馬市

この地で新たな価値を創造している会社やひとを**訪問、その志や活動を体感**

▼訪問先例（各事業所へクラスやグループ毎の分散訪問可能です。ご相談ください）

別紙「南相馬教育プログラム」や「あすびと福島」のネットワークの中から、学校様のねらいを考慮して訪問先を選定、アレンジし、決定後に連絡いたします。
（実施の１か月前目安）

※訪問先はご指定できませんのでご了承ください。

or

Work-shop 「未来へ活動する“ひと”に出会う」

南相馬で**新たな価値を創造している方**をお迎えした、双方向対話のワークショップ
※お呼びして双方向対話も可能です

南相馬市

Work-shop 「自分と社会の未来に向き合う」

南相馬市　会場「あすびと福島」ほか

被災地福島に向き合い、そこで感じたことを通じ、ありたい日本の社会と自分自身の将来に向き合います

プログラム実施内容【１日プログラム】

<基本パターン>
１日プログラム

被災地となった福島という「非日常」に身を置き、大震災から10年以上を経ても時が止まってしまっている区域「影」に向き合うことを起点に、新しい地域の価値を創生しようとする力強い「光」に触れることで、これからの社会と自分に向き合いアウトプットする、**まる１日実施のスタンダードなプログラム**です。

モデル日程　　実施地域

9:00 A　Field work

「沿岸部被災地の影と光を体感」　180分

- 事故を起こした原発と東京に電気を送っていた送電線
- 大震災から10年以上を経ても時が止まっている避難指示区域
  - ▼バリケードの家々
  - ▼荒れた農地や高校
  - ▼人通りのない古い商店街
- 大津波時に80人の小学生が走って避難し無事だった小学校

移動

- 2016年に避難指示が解除され新たな価値づくりが進んでいる街
- 世界レベルの「ロボットテストフィールド」や大規模な再エネ発電所

各地 ↓ あすびと福島

12:00 A　Work shop <1>

「“影と光”レビュー」　60分

フィールドワークでの「影」と「光」になにを感じるのか、
対話を通じレビューします。

ランチ

14:00 B　Work shop ＜2＞

「未来へ活動する“ひと”に出会う」　80分

南相馬で**新たな価値を創造している方**をお迎えした、双方向対話のワークショップ

【例】廣畑さんとの対話　　大震災からの新たなコミュニティづくり

避難指示が解除された南相馬小高で細々と始まった「小高とうがらしプロジェクト」。目的は、帰還した人々の「生きがい」「楽しみ」を 生みだしながら、小高の特産品を作ること。2017年、3名で試験栽培を始めた鷹の爪栽培が、2018年は60名以上の取組に拡大、その後80名以上に。帰還したお年寄り、震災後南相馬に移住した方、小高以外の賛同者の方々など、多くの方々が鷹の爪栽培に取組んでいます。

あすびと福島（南相馬）にて

15:30 D　Work shop ＜3＞

「自分と社会の未来に向き合う」　90分

被災地福島に向き合うこと、そこで見聞きし感じたことを通じ、それがきっかけとなり思いを馳せる**日本の社会と自分自身の将来**に向き合う対話型ワークショップ

「30歳になったころの社会はどうありたいか？」
「その社会をつくるために、30歳になったころどんな自分になりたいか？」
「そのために、中学・高校時代に自分はなにに取り組みたいか？」

17:00

Input → Output　／　過去 → 未来　／　事実認識 → 自分ごと

※ 時間配分や内容につきましては、ご希望を伺い調整可能です

●本プログラムのstory・ねらい

沿岸部被災地体感 → **復興の取組** → **未来への活動に出会う** → **自分、社会への問いかけ**

- 沿岸部被災地体感：何が起こったのか “影”
- 復興の取組：新たな動き “光”
- 未来への活動に出会う：未来へ向け志を持って歩んでいるひととの出会い
- 自分、社会への問いかけ：ありたい社会とは？ ありたい自分とは？

インプット → アウトプット
過去 → いま → 未来
事実認識 → 自分ごと

プログラム実施内容【1.5日プログラム】

＜充実パターン＞
1.5日プログラム

被災地となった福島に身を置き、大震災から時が止まっている区域「影」に向き合うことを起点に、新しい地域の価値を創生しようとする力強い「光」に触れることで、これからの社会と自分に向き合いアウトプットする、**1.5日実施の充実したプログラム**です。**志を持って活動する“ひと”、“会社”へのフィールドワークを組入れ、将来の自分やありたい社会への気づきが持ちやすいよう、より未来志向型の内容となっています。**

※ 時間配分や内容につきましては、ご希望を伺い調整可能です

モデル日程

1日目

13:00

A　Field work ＜1＞

「沿岸部被災地の影と光を体感」　180分

- 事故を起こした原発と東京に電気を送っていた送電線
- 大震災から10年以上を経ても時が止まっている避難指示区域
  ▼バリケードの家々　▼荒れた農地や高校　▼人通りのない古い商店街
- 大津波時に80人の小学生が走って避難し無事だった小学校
- 2016年に避難指示が解除され新たな価値づくりが進んでいる街
- 世界レベルの「ロボットテストフィールド」や大規模な再エネ発電所

16:00

Work shop ＜1＞

「“影と光”レビュー」　60分

フィールドワークでの「影」と「光」になにを感じるのか、対話を通じレビューします。

17:00

各地 ↓ あすびと福島

2日目

9:30

C　Field work ＜2＞

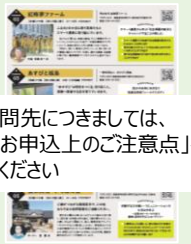
「志を持って歩んでいるひと、会社に出会う」　午前中

南相馬には、新たな価値を創造されている方がたくさんいます。**実際に訪問し、体験**や講演を通じてその思いや活動に触れることで、生き方や自分の将来への気づきが生まれるかもしれません。

訪問体験

- 若者が活躍するスマート農業法人
- 逆境に挑戦しアイデアを尽くした商品開発進める漬物店
- 100の課題が100のビジネスにつながるを実践する起業家
- 何もない街に戻り地域再生に向け早々に旅館復活させた女将
- 世界に誇るロボット技術拠点へと奔走する企業
- 自然と人との共生に取り組む農家民宿
- 馬の価値を高める活動を南相馬で実現目指す起業家。。。

※最大受入人数が30～60人の訪問先が多いため、分散実施等調整します



※訪問先につきましては、P.8「お申込上のご注意点」を参照ください

12:00

南相馬各地にて

13:30

B　Work shop ＜2＞

「未来へ活動する“ひと”に出会う」　80分

南相馬で**新たな価値を創造している方**をお迎えした、双方向対話のワークショップ

【例】廣畑さんとの対話　大震災からの新たなコミュニティづくり

避難指示が解除された南相馬小高で細々と始まった「小高とうがらしプロジェクト」。目的は、帰還した人々の「生きがい」「楽しみ」を 生みだしながら、小高の特産品を作ること。2017年、3名で試験栽培を始めた鷹の爪栽培が、2018年は60名以上の取組に拡大、その後80名以上に。帰還したお年寄り、震災後南相馬に移住した方、小高以外の賛同者の方々など、多くの方々が鷹の爪栽培に取組んでいます。

15:00

D　Work shop ＜3＞

「自分と社会の未来に向き合う」　90分

被災地福島に向き合うこと、そこで見聞きし感じたことを通じ、それがきっかけとなり思いを馳せる**日本の社会と自分自身の将来**に向き合う対話型ワークショップ

「30歳になったころの社会はどうありたいか？」
「その社会をつくるために、30歳になったころどんな自分になりたいか？」
「そのために、中学・高校時代に自分はなにに取り組みたいか？」

16:30

あすびと福島（南相馬）にて

Input　過去　事実認識
Output　未来　自分ごと

※ 時間配分や内容につきましては、ご希望を伺い調整可能です

プログラム実施内容【半日プログラム】

<コンパクトパターン>
半日プログラム

「１日プログラム」「1.5日プログラム」のうち、**カセットとしてご用意したものが「半日プログラム」**です。
スケジュールや他見学地との兼ね合わせ等から、ご要望に合わせ下記のような半日でのアレンジ実施も可能です。

※ 時間配分や内容につきましては、ご希望を伺い調整可能です

【半日プログラム１】 ●「影と光」フィールドワーク＆ワークショップ

モデル日程
午後の場合

13:00 A **Field work**

「沿岸部被災地の影と光を体感」 180分

- 事故を起こした原発と東京に電気を送っていた送電線
- 大震災から10年以上を経ても時が止まっている避難指示区域
  ▼バリケードの家々　▼荒れた農地や高校　▼人通りのない古い商店街
- 大津波時に80人の小学生が走って避難し無事だった小学校
- 2016年に避難指示が解除され新たな価値づくりが進んでいる街
- 世界レベルの「ロボットテストフィールド」や大規模な再エネ発電所

16:00 **Work shop** **17:00**

「“影と光”レビュー」 60分

フィールドワークでの「影」と「光」になにを感じるのか、対話を通じレビューします。

各地 ↓ あすびと福島

※ 午前中、午後いずれも、ご希望を伺い調整可能です

【半日プログラム２】 ●「自分と社会の未来に向き合う」フィールドワーク＆ワークショップ

モデル日程
午後の場合

12:30 C **Field work**

「志を持って歩んでいるひと、会社に出会う」 180分

南相馬には、新たな価値を創造されている方がたくさんいます。**実際に訪問し、体験**や講演を通じてその思いや活動に触れることで、生き方や自分の将来への気づきが生まれるかもしれません。

訪問体験

- ・若者が活躍するスマート農業法人
- ・逆境に挑戦しアイデアを尽くした商品開発進める漬物店
- ・100の課題が100のビジネスにつながるを実践する起業家
- ・何もない街に戻り地域再生に向け早々に旅館復活させた女将
- ・世界に誇るロボット技術拠点へと奔走する企業
- ・自然と人との共生に取り組む農家民宿
- ・馬の価値を高める活動を南相馬で実現目指す起業家。。。

※訪問先につきましては、P.8「お申込上のご注意点」を参照ください

※最大受入人数が30～60人の訪問先が多いため、分散実施等調整します

南相馬各地にて

15:30 D **Work shop** **17:00**

「自分と社会の未来に向き合う」 90分

被災地福島に向き合うこと、そこで見聞きし感じたことを通じ、それがきっかけとなり思いを馳せる**日本の社会と自分自身の将来**に向き合う対話型ワークショップ

「30歳になったころの社会はどうありたいか？」
「その社会をつくるために、30歳になったころどんな自分になりたいか？」
「そのために、中学・高校時代に自分はなにに取り組みたいか？」

あすびと福島（南相馬）にて

※ 午前中、午後いずれも、ご希望を伺い調整可能です

事前学習/事後学習

※Zoom等オンラインで実施します。 内容はご要望に合わせてアレンジします（料金別途）。

【事前学習】 1コマ50分の実施例

① 「あすびと福島」紹介
② あの日、何が起こったのか
～大震災から10年以上経ての福島沿岸部の今とフィールドワーク概要等
③ 生徒からの発言（質問や期待、不安など）
④ メッセージ

【事後学習】 2コマ100分の実施例

① あすびと福島から
② 今の思いについて
③ 個人ワーク 強く感じたこと、それを次にどう生かすか
④ 個人ワーク発表・行動へつなげるには
⑤ 感想、メッセージ

事前/事後学習につきましては「あすびと福島」までお問い合わせください。

お申込上のご注意点

■**受入人数** **10人～100人** ※組換え実施等、柔軟に対応しますのでそれ以上のご人数もご相談ください。

■**お申込締切** **実施の1か月前**までにお申込ください

■**当プログラム内でのフィールドワーク (c)「志を持って歩んでいるひと、会社に出会う」（訪問、体験）について**
別紙「南相馬教育プログラム」や「あすびと福島」のネットワークの中から、学校様のねらいを考慮して訪問先を選定、アレンジし、決定後に連絡いたします。（実施の１か月前目安） 訪問先は指定できませんのでご了承ください。
各事業所へクラスやグループ毎の分散訪問可能です。ご相談ください。

プログラム料金

※生徒・学生一人当たり料金（税込）/ 引率教職員無料

■**1日プログラム 7,800円** ■**1.5日プログラム 9,800円** ■**半日プログラム【１】3,800円 【２】4,800円**

※ 料金に含まれる主なもの ：プログラムコーディネート費用、会議室料や備品等運営経費、フィールドワーク外部訪問先費用、外部登壇者費用 等
料金に含まれない主なもの：貸切バス等の交通費、食事代、他個人的費用 等

南相馬へのアクセス

南相馬は、仙台、福島、いわきからそれぞれ車で約１時間20分の距離。
各発地から上記いずれかから組み立てると行程が立てやすくなります。

■首都圏発の例
発地から貸切バスで来る団体が多くなっています。いわき、福島まで列車利用も可能。

■西日本発の例
修学旅行の場合、旅行目的地を東京（TDL等）と組み合わせる団体が多くなっています。貸切バスが便利です。

■2泊3日の場合のプログラム実施時間例

1日プログラム	1	発地	
	2	フィールドワーク各地 ► 南相馬	
	3	着地	
1.5日プログラム	1	東京近郊 3～4時間 各地 ► 南相馬	
	2	南相馬（市内フィールドワーク ► あすびと）	
	3	着地	

お申込、ご予約関連お問い合わせ先

南相馬教育旅行デスク（JTB福島サテライト内）
✉ fukushima_contents@jtb.com
☎ 024-523-3314
〒960-8043 福島市中町1-19 中町ビル4階

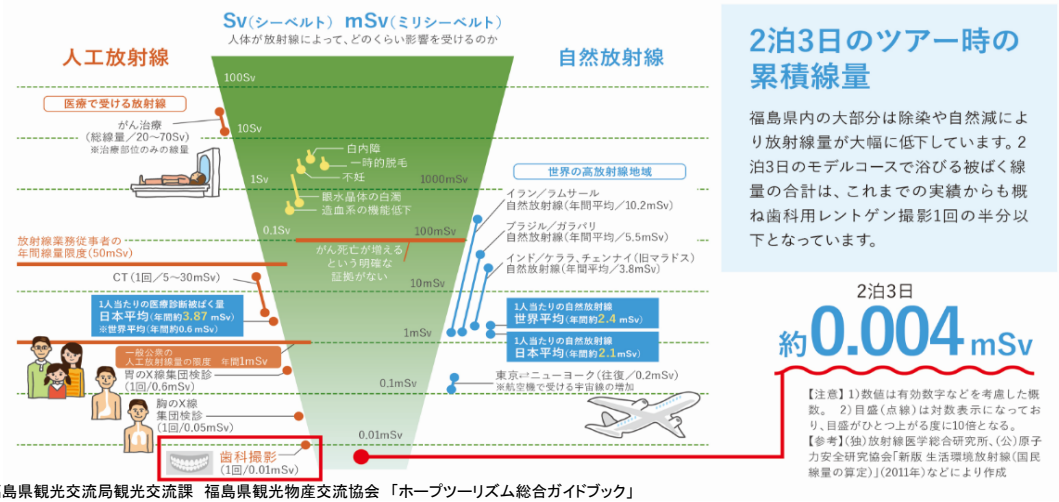
プログラム自体の仮予約・予約・取消等
予約後の内容問合せ、実施に向けた打合せ、人数変更、弁当手配等

プログラム内容等お問い合わせ先

一般社団法人 **あすびと福島**
✉ info@asubito.or.jp
☎ 0244-26-5623
〒975-0023 福島県南相馬市原町区泉字前向15

※ 南相馬市は当プログラムに協力しています。

参考情報



出典）福島県観光交流局観光交流課 福島県観光物産交流協会 「ホープツーリズム総合ガイドブック」